夕刊 磐城新聞
五月十一日發行
定價 一ヶ月金六十五錢（郵稅拾五錢）
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

本多忠籌公と石門心學

石川謙

下

忠籌公は、然し世のありふれた爲政者の如く、心學敎化の有効なことを宣傳し奬勵したのみではなかつた。實は、士庶に先立つて、自ら修行し自ら體驗し自ら味得せられた。公が道二の道話に初めて耳傾けたのは何年頃の事であつたか、さだかには分らない。天明七年四月には、美濃大垣の藩主戸田氏敎公の藩邸に招かれて數名の諸侯と共に道二の道話を聽かれたことがあり、翌八年六、七月の頃には、月並日を極めてその藩邸に於いて心學修行をしてゐられる。公が自ら熱心に斯敎を修行されたのみでなく、寛政二年頃より一家一族悉く相揃つて斯敎の修行研鑚につとめられたことは公の嫡男雄之進忠雄の手記にかゝる『忠雄聞書』によつて親ひ知ることが出來る。公の子息の中で心學を修行したものに、雄之進忠雄があり、河內守忠誠がある。熊之助忠があり、六郎忠順があつた。婦人にして道話にいそしんだ人に忠誠夫人があり、忠雄夫人があつた。公の息女で太田原帶刀（旗本千五百石）の室となつたお義の方も、公から石田梅巖の女敎訓と共に『女敎訓見樣心得』と題する公自筆の敎訓を贈られてゐる。かく觀じ來れば、公は自ら修行し、一家一族を修行せしめ、その味得し體驗したところを以て、領內士庶に施されたのである。泉藩上下の人々が、その精神的信仰を同じうし、その文化的努力を共にした世にも美はしい繪卷物がこゝに繰り展げられて來る。床しさの限りではないか。目を閉ぢて百五十年の昔に於ける泉藩の精神的結浆の美はしき風景を思ひ浮べると、何とはなしに淚ぐまれて敬虔の念に打たれる

かうした尊い、そして幸福な生活が、一體江戸時代のどの地方に、他に見出され得るのであらうか

×

公と公の藩のこの美はしい光景は、他に感化と影響とを及ぼさずに濟まう筈がない。寛政七年六月、先づ白河公松平定信が出羽庄內から泉へまはる玄養、自謙を途に聘して城下、領內に布敎せしめた。そして文化三年の頃まで、年々、泉と同じやうに、玄養をして來り講せしめた。その翌年から二本松、棚倉、烏山、太田原、壬生などの諸藩も泉の先例に倣つて心學敎化の導入を競ふこととなつた。東北心學こゝに至つて、隆盛となり、東北の民衆こゝに至つて、新なる精神文化に光被した。春風秋雨百五十年、泉の里に神鎭りまします忠籌公の御遺德を『精神生活の王國』を東北の地に打樹てられた建設者として一面から偲び奉つて、今更に景仰の念新なるを覺ゆる（完）

磐城歌壇

新妻久滿夫選

植田町　龍子

○おそ春はさびしからすやたそがれも、まひるも淡き乳色にして
○木に寄れば木肌の色のつめたさに、わびしさ湧きぬ暮春のこゝろ
○春風に眼をはそめつゝわれの來し、勿來の關の木々の色かな
○こゝにしてきみを想へり關山を、君はいくたび描きたりけむ
○關山ゆはるかに靄のもに向きて、想ひちり／＼亂れゆくかな

小評　近代人の有つ切迫した懊惱を描かんとしてゐる作者の努力は認め得るも、何かしら內面的の高價（?）な感傷を要求す

しらうを

鹽屋崎

土のまゝ獨活をからげて來りけり
つと立つて煙草捨つるや春の芝　緻子
桃の花村端れなる駐在所
踏青や腰をおろせば地の温み　欣子
春風に胸をひろげて遊戯かな
雛祭豆ぼんぼりに繪本讀む　章女

さんぼ

佐古まさほ

糸つけて
飛ばした　とんぼ
白い尾を
引いて　逃げたよ
追つかける
芒の原つぼ
兄さんと
ぼくと二人よ
糸つけて
飛んでく　とんぼ
白い雲
たかい高いよ
兄さんと
見上げる　僕に
ひるの月
白い遠いよ

社會の今日

○尼二人新茶選り居り小町寺　梧陽
子の寢顏あかず眺めて足るおもひ、のびを見せたる今年竹かな　秀しげ子

ビルは總てを知つてゐる（6）

小濱牧泉

昴奮のために赫く燃ゐた彼の顏は段々蒼ざめて來た。悔ひのやうな淋しさが彼の心に入道雲の樣に群つて來た

『三人も落着いてくれ、あとで話せば判る事だ』

『生意氣だぞ！おい安田、あとできつと話をつけてやるぞ』

『まあいいから怒らないでくれ……さあ行雄君行かう！』

だまつて行雄が歩き出した

險惡な六つの目に送られて、噴懣と悔ひに歪められた行雄のプロフェルが悲しく赫い灯に反映してゐた

取り殘された帽子をもつてこは／＼近づいたウエーターの手に五十錢銀貨を二つチリンと落して讓の微笑も硬ばつてゐた

『いいんだよ！心配しなくつてもね、又あとでくるよ！さやうなら……三人をなだめてくれ給へ、ね』

『さやうなら、またいらつしやいね』

親しげなそれでも未だ不安らしげなウエーターの聲をずつと後ろにきき乍ら讓は急いで行雄の後を追つた

讓が追ひついた時、行雄の頰には淚が筋をひいて光つてゐた

『小山君、淋しい！』

ちつと讓の手をにぎる行雄の肩に手を掛け乍ら、ぐつと追つて來た讓の聲も怪しくふるへてゐた。軒燈のおぼろな灯かげに、しょんぼり浮いてる表札の冷たさをはぢき返し／＼

『ねい！口惜しいだらう、けど昴奮しちやいけない！馬鹿にされてゐた事は口惜しいことにや違ひない、けれど馬鹿にするならどこまでも馬鹿にされてゐてやるんだ、そうしたらいつか必ず馬鹿にしきれない力をやつらは感じてくるんだ、ねい馬鹿々々と言ひ乍ら馬鹿だと言ひきれなくなる時がくる！』

『馬鹿だと言ひきれなくなる？』

『そうだ！そうなるとは考へられないかい、僕はそうなるのが本當にわらくなることだといつも思つてゐるんだ』

『有難う！えらい、君はねらい……有難う！』

狂氣の樣な行雄の醉から匆體ない程、きれいな淚がはふりおちた

5月12日

△日蓮上人伊豆に配流（弘長元）△長藩米艦を砲擊す（文久三）△朝香宮紀久子女王殿下鍋島家へ御降嫁（昭和六）△小學校長優遇案閣議で正式決定△木津川飛行場で二機衝突、飛行士等二名重傷△行方不明のリンドバーク大佐愛兒死体となつて發見さる△イングランド銀行また三分から二分半に利下げ（同七）

講談　浪人長屋（84）

日鮫武志作　月草道子畵

やもめぐらし（二）

――いつそ身を投げて、吉三さんの後を追はうかしら……

お園は、暗い水面をみつめてたゝづんでゐた

ほろほろと、淚が、やうやく頰をつたはつてゐた

ひた／＼／＼……と、ぬかるみを走つてくるやうな音がした

ひた／＼／＼……

たしかに、人の足音であつた

お園が、振りむいたと同時だつた

『待てッ』

と、叫んで、片目の男がそこに追つてきてゐた

『あッ』

と、お園は、おどろき、またもや、駈出した

『畜生ッ、待ちやがれいッ』

荒い男の息使ひが、背後に感じられるやうな氣がした

もう、逃れられぬと、思ふと、目先がぐら／＼として、なにも見えなくなつてゐた

とたんに、どんと何物かにぶつつかつて、ぱつたりと倒れると、そのまゝ氣が遠くなつていつた

片目の男が、何かどなつてゐるやうな氣がしたが、そのまゝ、もう、氣を失つてしまつてゐた

× × ×

まづしい裏長屋に、お園が、ふッと眼ざめたのは、その翌日の十時ごろであつた

粗末な、せんべい蒲團の上に、よこたはつてゐた

お園は、昨夜、あの片目の男に追はれて、夢中に逃げた事を、思ひだした、してみれば、あの片目の、いやらしい男にとらはれてまた、連れ戻されたのかと思つてはッとした

けれども、船頭勘兵衛の[illegible]とは部屋のやうすが、ちがつてゐた

枕邊に、男が、若い武家が、坐つてゐた

『眼がさめたやうですな』

しづかな、聲がした

お園は、武家の顏を見た

武家は、微笑をうかべた

白い額が、眼についた

都築鐵之助である

岡田隨軒から破門されて一旦かのお秋の許に走つたが四十女のはげしい愛慾から逃れて今はこの裏長屋にまづしい暮らしをしてゐた

『昨夜、隅田堤で、すんでのことで惡い奴の手に、かゝるところだつたが――』

お園は昨夜のことが思ひだされ、この武家に救はれたのだと氣がついた

『あ、ありがたう、ぞんじまする……』

といつて、あをじろい顏に、あえかな笑みをうかべた

『駕籠で、こゝへ連れてまゐつた時は氣を失つてをつた、すぐ醫者を呼んで手當をさせたが、たいしたことではなく暫らくしづかに休んでをれば大事はないとのこと――』

『はい』

『いろ／＼事情があることだらうが今は何も考へずにをられるがよい、わしは都築鐵之助と申す、故あつてこんなみすぼらしい獨り暮らしをしてゐるが信じてゐてくだされ』

『ありがたうぞんじます』

『身內のものを呼んできて進ぜよう家はどちらですな親御たちも、さだめし、心配をしてをられるだらうな』

『はい、けれども……』

お園は、口ごもつた

今更、甚兵衛夫婦に合はせる顏はないと思つた

裏切つたじぶんの罪が、おそろしく、そしてすまぬのである

廣告

磐城名物
靈峰羊羹（みやまようかん）
小川郷驛前
平屋賣店

平町新川町
木村病院
電話一六四番

胃腸整理藥 ★H
ホシチヤコール錠
クスリはホシ
神のものは神に「ホシ胃腸藥はホシに」と御承知願ます
適應症　慢性急性胃腸カタル　食傷　胃痛　腸張　嘔吐
一、ホシチヤコール錠は、胃腸の疼痛の原因たる有毒瓦斯、下痢の原因なる腸內の黴生物、或は粘液等を吸着して大便と共に體外に排出する
二、けれども胃腸內に於ける消化液、營養素など必要な物は絶對に取つて行かない實に忠實なる胃腸の整理役である
三、健康なる人も一週に一度は胃腸の整理を命ずるが宜しい。一般胃腸病と豫防の爲めに。

東京・五反田　星製藥株式會社
ホシチエンストアー平支部
ホシ藥舖
平町三丁目三〇　電話四二九番

賣地廣告
湯本町三函、眺望絶佳、高地百八十坪、坪九圓賣地、但し分讓もする
御希望の方は弊社に御出下さい（姓名在社）

美しい
花の種子
毎度御好評をいたゞいて居ます。横濱植木會社の輸出向き特選種子です。『草花種子の蒔き方』を上ます。巨大輪七寸咲朝顏の種子が參りました。
西村屋藥局種子部
平2・電3

各國產漆器専門御
共
共榮漆器店
平町三丁目三六

店員募集
小店員　本年尋卒　仕着　月手當　三圓
　　　　同高小卒　仕着　月手當　五圓
外交員　二十才ヨリ三十才迄　五名
右至急募集ス　優遇　委細面談

外科
全般科
內科
小兒科
醫學博士　渡部義夫
女醫　渡部きい
渡部外科
平町田町大通り（電話二七七）
入院應需

開業
診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、繼續架工科
齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長 日本齒科醫學士 中野惠次
日本齒科醫學士 西川誠
平町田町（松月堂向ヒ）電話五〇九番

電話開設
電話一一二番
上原家政婦會
紺屋町一一番地

永い間車輛不足で皆樣に御不便を御掛け致し申譯御座いませんでした。今度增車許可を得ましたので
新車を購入致しましたから是非御下命下さい。なほ松崎タクシー部を讓受けましたので新車を購入し皆樣の御氣に召す樣致します。車は最上とは申上げ兼ねますが『堅實第一』の營業方針で不二タクシーの名を辱めぬ樣從業員一同努力致します故何卒倍舊の御愛顧の程御願ひ申上ます。
平驛構內並ニ貸切專門　不二タクシー　電話三二番

近來の好況が影響し 磐炭、入山の株盛に動く
全國的屈指の優勢振り

石炭鑛業界がやうやく好轉して來た折柄十四日より東京で開催される鑛山監督局長會議に諮問事項として課せられてある「石炭需給の調整策如何」に對し何んな結論が下されるか炭鑛界一般は少なからず關心を拂ひこの機會において東北地方はその主要石炭山の現況について再檢討の必要があらうとされてゐるが、常磐地方炭鑛界の好景氣は主として需要の增加に伴ふ炭價の値上りに基因するもので磐城及び入山の兩會社について見るに相場の昂騰は昭和八年の六月から初まつてゐる

山元販賣價格(噸當り)	磐城(綴塊)	入山(五坑塊)
八年六月	八、〇七〇圓	八、〇三二圓
七	七、九九九	八、一六二
八	八、〇四五	八、一二一
九	八、三二三	八、一二四
十	八、三六六	八、一九三
十一	八、三六六	八、二〇三
平均	八、二〇一	八、一四三

東北主要石炭山における資本投下狀況については―昭和八年下半期における古河、磐城、入山の三炭鑛株式會社の資本金總額は公稱資本金二千六百七十五萬圓拂込資本金二千三百三十五萬圓で前期と對比して增減がない、資本系統としては古河石炭鑛業(好間炭鑛)が殆と全部が古河に屬し入山採炭は大倉系持株比率が五六%を示し磐城炭鑛は比較的分散して居るが主なる系統としては淺野、澁澤の兩系で前者一四%、後者七%の持株比率を示してゐる、古河は株主數が僅かに一四名に過ぎず毎期さしたる變動もないが磐城、入山兩社は共に前期に比較して相當數の株主數を減少してゐる特に興味あることは兩社とも昭和七年上、下兩半期間においては株主數に殆ど異動なかつたに拘らず、昭和七年下期と昭和八年上期との間には著しく株主增加し更にこれが八年上期と下期との比較においては反對に減少してゐることである、この現象は近時炭界の好況に伴つて株價が騰貴し、この變動に際して株の思惑買が頻々と行はれた事實を示すものである、因に目下炭鑛株で頻りに賣買の行はれてゐるのは常磐の磐炭、入山と九州、北海道の兩炭鑛汽船の四つ位のものであると

災禍の田島町へ 平町から見舞金
全町へ百五十圓割當

平町では南會津田島町の大火に際し今十一日取敢えず見舞電報を發し全町各區に總額百五十圓を割當て見舞金を募集送附する事になつたと

軍艦旗献納金

平第二校では東日、大毎主催の軍艦旗献納金として兒童より一錢宛の自由寄附を集めた金十三圓十三錢を昨日送附した、同第一校でも同様金十三圓三十七錢を、以上平三小學校で計三十四圓十錢である

町民の半數が加入
二萬五千口目標に進む
平局の簡保開拓成績

仙臺遞信局管內第一の成績を擧げ躍進又躍進を續け大牛の意氣を象徵してゐる平局では既報の如く今年度割り當てられた二千圓の簡易保險の勸誘に大童であるが四月一日以降五月十日現在迄の勸誘成績は件數四百七十四口、掛け金二百九十二圓五十錢に上り、現在の二萬三百三十五件を二萬五千にせんと意氣込んで居る、因みに同局扱最高は平の一萬三千五百二十七件、掛金一萬九百十六圓三十錢、好間の二千九百四十九件千八百五十九圓十錢等である

第二師團から 陸士志願を奬勵
今年の不成績對策に 配屬將校へ參考書を配付

第二師團では九年度の將校生徒志願者中管內受驗者の成績が餘りに香ばしくなかつたので此程管內各配屬將校宛に左記其他要項を記した參考書類を配り今後に備へしめて居る

九年度合格者は鹿兒島、宮崎等が壓倒的多數を占めた結果將校出身地の偏重を憂慮されるので各配屬將校に於ても生徒中適任者と認むる者及其父兄に對する勸誘に努め、一二回の失敗に氣落ちせず進んで志願せしむる樣にしたい。昨年度は嚴格すぎたといふ世評あるが今後は充分考慮して有能の才を採用する。又昨年度は身長、体重、胸圍及び筋肉の薄弱、近視の不足及近視性亂視、氣管支、肺、胸膜の慢性病及びその胎後症等管內受驗者中に多かつた、この檢査では胸部、腹部の檢診が嚴重であるから此點充分注意されたい

相談所多忙
利用者頓に激增

同上健康相談所の成績は近來頓に見るべきものあり四月以降五月十日迄の受付者は初診六百八十一名、舊患三千三百二十名、計四千一名、一日平均百二十五人に上り一般の利用は漸次增加の傾向に在る

參謀本部員 燈台見學

陸軍參謀本部山田少將外將校約二十名は今十一日午前十時豐間燈台を見學した

鮮人學生獨唱

磐女校では今十一日正午から中央大學生奇容觀(邦名山田眞次郎)君の朝鮮民謠『親孝行アリランの唄』その他の獨唱あつた

四倉築港 掘鑿開始
締切り作業了る

四倉築港第二期〆切り作業は一昨九日を以て完成、昨十日より關根所長以下總動員で爆破掘鑿の作業を開始した

鋪裝工事打合

平町國道筋の鋪裝工事は工費三萬圓を以て愈々來月上旬頃着工に決定したので小林平土木監督所長は明十二日青沼町長と位置、受益者負擔金、工事種類につき種々打合せを行ふ筈

。。。。。。小濱漁港設計打合。 小林平土木監督所長は今十一日來郡の縣土木課神谷技手と共に植田に出張小濱漁港の九年度工事設計につき打合せをなした

春蠶掃立開始
一日以來天氣豫報を揭げ 平窪村尖端を切る

平窪村では去る一日以來每日電報で小名濱測候所の觀測を受け、役場前に天氣豫報旗を揭げて春蠶掃立酣なる各養蠶家に便して居るが同村一部では昨今の好天に惠まれ桑の萠が良好なため去る八日既に郡下に魁け掃立を開始したと

農繁季托兒所開設
平窪は決定、平は計劃中

平窪村では來月の農繁季に際し例年の如く十五日より同月一ぱいの豫定で小學校內に托兒所を設け農民の便宜を圖るが收容人員は大体百名內外であると、尚平町でも同期間に於て九品寺に設けるらしいと

傳貧馬豫防
産組で印刷物配布

石城産馬畜産組合管下に於ける傳貧馬は專任技手の新設以來次第にその數を減じて來たが未だ三坂方部の山間に發生するので近く『馬の傳染性貧血豫防に就て』なる兆候、豫防法を詳細したパンフレットを配布これが撲滅を圖る事になつたと

平署管下 優良五運轉手表彰
來十三日縣下協會總會

明後十三日須賀川町で開催される縣下自動車協會總會に於て表彰される優良運轉手中平署管內の分は今十一日左の如く決定した

(括弧內營業者)

平町―草野英範(吉田直之助)菅本昇(加藤丈夫)加賀藏之助(鈴木喜太郎)小名濱―本部保喜(小濱長太郎)江名町―高岡四郎(瀧口平治)

平青訓擴張
全町に勸誘開始

平青訓生は現在晝、夜間兩部で約七十名に過ぎず入所季である先月すら僅か十名足らずの新入生を見ただけなので今後極力勸誘、內容の充實を圖るため町內各區長と連絡して來る十八日迄十七才以上二十才迄の適令者を調査後各委員が分擔戶別訪問勸誘する事になつた

入遠野村養兎奬勵方法

昨報―入遠野村の養兎組合は目下郡農會柴田技手の指導の下に先づ三ヶ年計劃により初年に種兎を共同購入してこれを共同販賣しその純益金を以て之亦農家の副業として最も有利と云はれて居る養豚を始むるもので三年後には各家庭に兎十頭及豚を飼養せしむると云ふ案で來春には組合員有志が先進地を視察する豫定であると

縣下の按摩さん
大擧して豊間へ
總會前の一日を清遊

縣下盲人大會は既報の如く明後十三日磐城訓盲院に於て開催されるが平町外の出席者約百五十名は明十二日來平、大型バスに分乘豊間村沼之內辨財天に於て營業繁昌を祈願、同海岸に於て清遊會を催すが福島、會津方面等海の空氣にひたつた事の無いものが大部分を占めて居るので何れも樂しみにして居ると

水盜用調べ
昨第一回の檢索で 不正鍵十五個押收

平町最近の轉入者中轉出者から水道鍵を貰ひ受け使用して居る者があるので町では昨十日全町に亘つて調査私設共用を通じ十五個を押收引續き調査中であると

發明家毒を仰ぐ
家庭的事情伏在か
セメント職工のカル自殺

四倉町セメント會社職工本間正俊(三二)は九日夜カルモチンを嚥み自殺、同工業所溜池附近に死んで居たのを昨十日朝發見、四倉署神永部長檢死の上死体を家人に引渡した、同人は最近或る種の發明をなした程天才的の素質を有する男であるが自殺の原因は何か家庭的に複雜した事情があるらしいと

。。。。。。四倉管內鹽商總會 昨十日午前十時より同町朝日館に於て開催せりと

。。。。。。第二敎員異動 平第二校商業專科訓導玉手利藏氏は昨十日付で平商校敎諭に榮轉、後任として安藤四郎氏が着任した、又過般退職した加治コト氏の後任は湯本尋高校より千葉トシ氏轉任した

磐炭坑夫募集

最近頓に有卦に入つてゐる磐炭では昨十日平職業紹介所に採炭夫五十名の斡旋方を依頼して來たが年令は十八才から三十五才迄の尋卒以上の者で日給も一圓乃至三圓と云ふ大奮發であると

警親會總會

石城警親會第五回總會は既報の如く明十二日午後一時から平署會議室に於て幹事長、會長の挨拶、會務報告、役員の改選、役員の挨拶及會員演說、來賓祝辭の順で開き終つて長橋町性源寺に於て左記物故會員の慰靈祭を施行、午後六時から住吉屋本店で懇親會を催すと

(殉職會員)鈴木源七、倉田親之(故會員)大井川伊勢松、猪狩久五郎、萩音次郎、綠川親光、佐々木庸三、二階堂武雄、吉田竹次、福尾文太郎、與山成藏、和田庄作

理髪業試驗

本縣に於ける今年度理髪業者試驗は來る十五日學科、十六、七の兩日は實地を何れも郡山で行はれるが郡下の受驗者左の如し

平五一、植田五、四倉四

。。。。。橫山署長巡視 平署管內理髪業者組合長である橫山署長は同業店舖の改善を圖るため一昨九日管內を巡視したが店舖設備の優良なるに驚かされたと

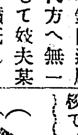
電話申請好績

過般來受付中の平局電話加入申請は本年度より設備費二回分納の便法を實施したためと地方景氣の好轉から本日迄に既に五名に上つた外尚二、三名增加の模樣で昨年の五名に比し好成績を示してゐる

登樓を拒絕され 出刄で妓夫を威嚇
泥醉三人男檢擧さる

飯野村大字上荒川牛馬商坂本文惠(三六)草野村大字下神谷蹄鐵工津田一郎(三八)高久村大字下高久農鈴木國近(三八)の三名は昨十日午後三時頃泥醉して平町鎌田遊廓豆樓事長谷川德代方へ無一文で登樓せんとして妓夫某に拒絕されたのを憤慨して坂本は附近の家から刺身庖丁を持ち出し脅かして居る處を急報により平署員が馳せつけ檢擧した

艶罪黑白



◇都腰卷の裾からパリパリお尻を掻き乍ら『サーつつぎやすべ』とやらかしたのは、まさか石城郡の首都たる平町の藝者さんではあるまいが◇思つたより低能だ。と云はれて『おだてなさんな』と極りの惡い顏をしたのがある位だから今更びつくりする程の問題ではないにせよ◇先逆本店の大宴會に出た四十人の中には膳の持ち方、出し方を知らぬずい分ご念の入つたのが少くなかつたとかで、さる炭鑛の所長さんなどは◇平の藝者には早速作法の講習をやらねば駄目だ。と述懷して居た程である、學を握るばかりが藝者であるまいから何とか一と工風あつて欲しいとの事◇愈々平町にも出來た。と如何にも感心した樣な顏つきをするので『都市計劃さへして居る町だもの其の位の交通機關が出來るのは當り前だ』と云つてやつたら電車は電車だが花電車だつて。何の事やらわかつたらんでありやあしれえ◇急に初夏らしくなつてからだがだるく、花柴の額が益々長くなるシーヅンだ。なんて思ひ切つた惡口はよせよ!。……◇……

平商軍靴奬勵

平商校では既報生徒係會議提出事項の一として生徒に軍靴を奬勵、志望を募つて居るが將來は校長以下何れもこれを使用して非常時氣分を味ふべく此程見本數種を取り寄せたが志望が多くなれば一足二圓六、七十錢見當で分たれると

。。。。。。長橋衛生係改選。 平町長橋町では此程衛生係員を左の如く改選した

衛生區長―山田粂松、世話役―平井要三郎、關內信二郎、船岡與惣治、小菅榮之助

。。。。。保育講習出席 來る十八日平第三校で開催の農繁期保育事業講習會に平第二校からは津田校長、木村、千葉各訓導が出席する

。。。。。初夏の遠足一束 平窪青年團員五十名は昨九日午前九時から湯の嶽、高野方面へ、又澤渡小學校兒童は來る十八日高學年生は平方面に何れも遠足

誤叱府

前後八年の敎壇生活から先頃東北帝大理學部の書生々活に入つた元磐中敎諭鈴木寅之丞氏から最近磐中敎員室に宛て書信あつたが書中老書生の面目躍如たるものがある

―老書生の新入生なるを以て日々五時頃まで實驗や何やかやと相追はれ居り候、且つ時々獨乙語の相當の原書をあたかも中學校の英語の時間の如く一人々々譯させられ小生はドモリの如く赤面しつゝやり居候、然れども三十歳以上のもの小生共三人(小生クラス中最年長者)居候間、幾分氣を安め居り候

。。。。。津田校長出福 縣敎育會各郡市部會長會議は來る十五日福島市敎育會館で開催敎職員互助會設置、敎職員服制に就き協議するが郡下よりは副會長津田第二校長が出席すると

。。。。。平驛業務打合 明十二日より二日間に亘り驛員全部の打合會を開くと

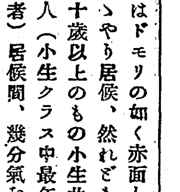
。。。。。平驛三主任出水 水運管內出札改札、小荷物係事務打合會は來る十七日水戶市海老藤旅館に於て開かれるが平驛より猪狩、小野、佐々木各主任出席すると

。。溺死。 七日午前十一時半ごろ植田町字町後植田繭市場裏用水堀に四十五、六才の溺死體あるを附近田打の農夫が發見大騒ぎの結果植田署齊藤部長臨檢したが右は山田村小山田字鈴木田農通稱仆兵衛力事小野力(四八)で去る一日ころ泥醉の結果同用水堀の橋を踏みはづして轉落溺死したらしいと

十二日

日出	四、三九	月出前	三、二三
日沒	六、三六	月沒後	五、二九
滿潮	前三、四五 後五、二五	干潮	前一〇、三〇 後一〇、五〇

舊三月二十九日 土曜 新五月十二日
癸未 先勝 滿 女宿



諸判定鑑 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神宮館

▲一白の人 怒たうに押し寄せられて一切を流失する如し▲二黒の人 苦勞は伴へども忍耐は終に平地を進む如し▲三碧の人 元氣のみにて衰運は押切らるゝものに非ず▲四綠の人 優柔不斷は終に起ち難し迷はず所信に進め▲五黄の人 衆人の上に立つ勢あれど才智に誇る時は凶▲六白の人 計畫次第に進展してたい頭容易なる吉兆あり▲七赤の人 運途至極佳良にして溫健なれば希望成就す▲八白の人 奇計を巡らさんより平凡手段にて進むが吉▲九紫の人 返り花の一時盛りなるに似たり自重が肝要

樂い初夏が訪れました
御家族樣連れの御散策にも
急を要する御商用にも
是非尼子タクシーを
御願致します。
平二 電六四〇番

貸切り―專門優良車
乘心地の超特快適な三四年型デラツクスセダン着
何卒御用命願ひます
平町四丁目 鈴木自動車部 電話二一七番

新車購入御披露
御待ち兼ねの一九三四年マスターセダン!! 本縣下第一車が
皆樣の昭和へ入りました
ニーアクション裝置絕好の乘心地、
是非御試乘の程御願ひ致します。
呼び良い電話三四〇番增設致しました。
平驛前 昭和タクシー 電話 三四三 三四〇番

耳鼻咽喉科專門
平町田町七〇番地
山內醫院
入院隨意
病室完備
(看護婦見習一名入用)
醫學士 山內亨吉
電話 六九一番